

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870300492
法人名	医療法人 三善会
事業所名	グループホーム 薬師谷マナー
所在地	愛媛県宇和島市川内甲2101
自己評価作成日	平成 28 年 7 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 8 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に開かれたホームを目指して運営会議のメンバーの加入、又お茶会の開催など取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市内の外れにあり緑に囲まれ、溪谷から出る清らかな水が前を流れ静かで環境のよい場所に位置している。経営母体は診療所で24時間の医療体制が整っており、利用者の健康管理から看取りまで幅広い対応ができています。開設当初からの職員が多数在籍しており働きやすい環境であり、管理者が職員から信頼される人柄であることが見て取れる。職員は利用者の認知症が進行していく中、ゆっくりかかわって自分のできることは自分でもらうよう見守っている。自分のできた喜びを利用者と共に分かち合い、信頼関係を大切に笑顔で穏やかに、自立した生活が続けられるよう職員全員が同じ思いで支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム薬師谷マナー

(ユニット名) 岩戸

記入者(管理者)
氏名 横濱 和枝

評価完了日 平成28年7月1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 各ユニットごとの、スタッフで話し合い理念を作ってミーティング時に復唱し、共有はできている。実践に繋がるように努力している。</p> <p>(外部評価) 開設時の職員が話し合っ作成した理念を大切に継承しているが、10年経過し見直しを考えている。職員は利用者一人ひとりに寄り添いながら、信頼関係を築き穏やかに過ごしてもらえるよう支援に努めている。事業所理念とは別にスタッフ理念も掲げており、ミーティング時に唱和するなど共有し実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩時に挨拶をしたり、自治会に入り活動に参加したり、地域の美容院等利用したり取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 前回の外部評価のアドバイスを活かし、地域住民の通り道に面した玄関先に事業所の予定を書き込むウエルカムボードが用意されていた。自治会に入会し地域行事に参加して顔見知りになるよう努めており、散歩時には近所の住民と挨拶が交わされている。地方祭では牛鬼が事業所を訪れるなど利用者の楽しみとなっている。</p>	開設して13年目を迎え地域に浸透している。地域は新興住宅地で新しい関係性を築くのが難しい中、努力して前進しているのがわかる。実際、運営推進会議や避難訓練などの参加者も増えている。継続して努力を続け今以上に地域との交流を深め、事業所の良いところなどの発信も期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、又お茶会などを開催したり、行事ごとはウエルカムボードでお知らせし、ホームに立ち寄ってもらえるよう努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度、開催し活動報告、ホームの実情など報告し、 意見を頂いたり情報を頂いたり、取り組める事は参考にして取 り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議のメンバーを増やすよう取り組んだ結果、地域住 民の参加を得て開催できている。会議では、利用者の生活状況 や事業所の活動報告を行っている。最近では利用者の重度化が進 み外出支援が減っていることが取り上げられ、家族からは「屋 内でも楽しめることもあるので好きなことをさせてほしい」な どの要望もあり支援に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の参加、介護相談員さんの受け入れ、又解らない 事があれば相談に乗って頂いている。	
			(外部評価) 市職員は運営推進会議に参加しており、事業所の実情を把握し て介護保険の更新や権利擁護などの相談を行うなど適切なアド バイスをもらっている。またヒヤリハットや事故報告が速やか にとり行われている。介護相談員の訪問が2か月に1回あり、 利用者とは会話することで気づいたことを助言してもらったりし ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ全員理解をしていて、身体拘束をしないケアに取り 組んでいる。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の弊害について理解し、拘束をしないケアに努 めている。転倒リスクのある利用者には、センサーマットを取 り付けるなど予防につなげている。玄関の施錠は夜間のみで日 中は出入り自由である。また、言葉の拘束についてもミーティ ングで話し合い職員全員で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 何が虐待にあたるかスタッフ理解をしている。又スタッフのストレスにも気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前、利用したことあり理解はしているが、スタッフには、詳しくは理解されていない。今後研修の機会を持ちたいと考える。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、主任と一緒に説明し話を聞き、不安の無い様に勤めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの訴えはスタッフで共有し改善できるよう取り組んでいる。家族さんからはミーティングに参加出来る方は参加して頂き、意見を聞いている。又面会時等常に声をかけさせてもらい、意見を聞くようにしている (外部評価) 運営推進会議や面会時に意見や要望を聞いたり、遠方の家族にはホーム便りを送付する際に事業所の活動内容や利用者の状態などを書き添え送っている。家族からの返信書類の中に要望などが添えられており職員全員で共有するようにしている。また2か月に1回のお茶会などで家族との交流を図り、感想が得られるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティング時、管理者会議を定期的に行っていて意見を聞き、報告し、反映出来ることはして頂くが反映出来ない事もある。</p> <p>(外部評価) 開設以来の職員が多数在籍しており働きやすい環境が伺える。職員は日常的に気づきや意見をミーティング等で提案し話し合っている。休暇は希望通り取れたり、休憩も別室で取れるなど職員が働きやすいよう配慮されている。最近では家族風呂なら気にせず入れるのではとの意見を取り上げたり、利用者の重度化を踏まえリフト浴の検討などもされている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 管理者会議等で実情を把握するように努めては頂いているが、十分ではない。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修をうける機会は確保して頂いている。学びたい研修を受ける事ができる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 同業者との交流は理解していただいているが、特に取り組みはしていない。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前に訪問できる場合は、訪問し話を聞き不安なく入所できるように努めている。又できない場合は入所時に十分時間を取り話を聞き、不安無い様に努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に訪問できる場合は、訪問して家族さんの話を聞き、 又訪問できない場合は入所時に時間を取り家族さんの話を聞 き、不安の無い様に勤めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人、家族さんにとって何が重要か？十分話を聞き、対応して いる。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 人生の先輩として教えて頂いたり、出来ない事をさりげなく 支援し、一緒に生活を楽しむよう取り組んでいる	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんの負担にならない程度に行事、外出等一緒に過ごし て頂けるように声かけし、共に支えていく関係作りに取り組ん でいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 本人の行きたい所支援していたが、最近では認知症の進行（意欲 低下、相手の事情）等により出来ていない。面会時にはゆっく りと過ごして頂ける様支援している。 (外部評価) 近くの神社へ参拝に行ったりコスモスなどを見に行ったりして いる。地域の美容室に定期的に行き、全介助の利用者も毛染め を行うと笑顔がみられる。週1回程度の買い物では利用者それ ぞれの食べ物や、晩酌の好きな利用者は自らお酒を選んで楽し むことができている。昔の同僚が面会に来てくれたり、自分で 携帯電話をかけたたりして馴染みの関係を大切にしている。今月 は七夕踊りに出かける予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関係性を把握し、良好な時は見守り、関係性悪化の時は介入し、孤立している人があれば関係性を築けるように支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他に移られた場合は情報提供したり、求められれば相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 契約時、又日々の関わりの中で言葉を聴きもらす事の無い様心がけ本人の思いを把握するよう努めている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりとゆっくりかかわることで思いを聞き取るよう努めている。言葉に表せない利用者には行動や表情により把握したり、利用者の今までの経過などを確認し意向を把握するようにしている。リビングに七夕飾りが飾られ、短冊には利用者の字で思いや願い事が書かれており、職員も毎日それを見ながら業務に励んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人を知る為にも必要と考え、プライバシーに配慮し把握に努め、スタッフで共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズム、心身の状態、出来る事、解る事など、その人の全体像を把握するように努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ミーティング時、スタッフ家族同席して話し合いプランに反映している。同席できない場合は面会時TELなどで意見を聞き反映している。</p> <p>(外部評価) 家族面会時や電話で意向を確認したり、ミーティング時家族に参加してもらいながら利用者や家族の要望を取り入れ、担当者を中心に介護計画を作成しており、「挨拶をする」「散歩に行きたい」「トイレに行く」など要望が盛り込まれている。また定期的にモニタリングを行うなど職員と家族が情報や思いを共有しながら、よりよい介護計画になるよう努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) センター方式の24時間シートに記録し活用しているがプランに活かさきれていない。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 通院、個別の買い物、自宅までの送迎など、希望に応じ対応出来る事はしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ボランティアの受け入れ、地区の消防団と連携し避難訓練、地区の美容室の利用、地区のお祭りへの参加。など支援しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人、家族の希望を聞き適切な医療が受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 母体の診療所がかかりつけ医となっており、訪問診療や訪問看護が行われ、24時間医療体制が整っている。専門医への受診は職員同行で行われ、結果は適切に家族に伝えられている。歯科治療など必要に応じ往診が可能で、利用者の健康状態に応じ適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) ホーム内に看護師が居てすぐに相談出来る。又法人の医院の看護師さんにもすぐに相談出来る。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院された場合、生活の様子等情報提供し、入院中は本人のダメージ軽減のため面会に行っている。又退院時には生活の注意点等、病院より説明を受け、支援している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 終末期の話は聞いているが早い段階では聞いていない方もある。又事業所で出来る事、できない事をお話しし意見を確認しながら取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 看取り指針を定め、状態に応じ本人や家族の意向を確認しながら事業所ができること、できないことを明確にしながら医師を交え説明がされるなど、意向に沿うよう努めている。今までに本当の看取りを行ったのは1名で、家族も立ち合い穏やかな最期を見送ることができた。今後さらに勉強会を重ね看取りに取り組む姿勢であり、重度化を踏まえ喀痰吸引の研修も検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) スタッフ全員普通救命講座を2年に1回受講している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を定期的に行い、地区の消防団、近隣の方、運営推進会議のメンバーの方も協力して頂いている。 (外部評価) 年2回、うち1回は消防署立ち合いのもと消防団や近隣住民の参加を得ながら火災避難訓練を実施している。夜間想定避難訓練も行っており、職員がモデルとなり毛布を使用して階下へ下す等実践的な訓練を行っている。また事業所が土石流の災害も懸念されることから、2階への避難訓練も想定し行っている。備蓄品においてはまだ不十分なため調整を行う予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として対応している。 (外部評価) 利用者の今までの歴史をたどり尊厳を損なうことがないように対応に気をつけている。人生の先輩として敬う気持ちを持ち親しき中にも礼儀ありの意識で言葉かけを行っている。またトイレや入浴時には不快な思いをしないようカーテンや仕切り等でプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴し、観察し本人の思いを把握し自己決定出来る場面を作り、働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に添って支援したいが、重度化、行事、通院等があり、スタッフの都合で支援している所もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容の乱れ、季節感の無い着衣等があればさりげなく声かけし、支援している。地区の美容室を利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 重度化により、とろみ食又声かけが必要な方殆どが介助が必要になり出来ない事もある。	
			(外部評価) 担当職員が毎回の献立を重複しないよう確認し、肉や魚、野菜が満遍なく摂れるよう意識しながら決めている。誕生日には利用者がリクエストした食事やケーキが用意されお祝いしている。また利用者の状態に合わせて、きざみやとろみ食など形態を変え提供している。南楽園での外食や秋の家族交流を兼ねた芋炊きなどが予定され、利用者が食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 月に1度カロリー計算を行い、栄養バランスの参考にしている。又体重測定を行い参考にしている。その人に応じてトロミ食、水分チェックをしたり参考にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、その人に合わせて声かけ、一部介助、全介助を行い清潔が保てるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりに合わせて声かけ、誘導、時間毎にトイレに行き介助する色々です。なるべくトイレで気持ちよく排泄できるよう支援しています。</p> <p>(外部評価) 各ユニットにトイレが3か所あり、うち1か所には男子便器が設置されるなど配慮されている。職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導で日中はトイレでの排泄を支援している。職員は利用者に羞恥心を感じさせないようにトイレでの排泄を支援している。トイレが一番落ち着く場所と言われる利用者があり、そこは職員との会話も弾み利用者の思いが聴ける場でもある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 理解はしているが、運動不足はあると思う。薬に頼っている部分もある。今後取り組んでいきたいところである。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 重度化、又スタッフの人数など、家族さんの理解を得て支援をしている。(スタッフの都合になっている)</p> <p>(外部評価) 週2～3回の入浴を基本としているが、希望に応じいつでも入れるよう準備している。利用者の状態に合わせて2人対応にするなど、安全に入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には声かけのタイミングや入浴剤を入れるなど工夫し、気分転換を図り無理強いしないよう努めている。着替えは選ぶ喜びを大切に、2パターン用意して決めてもらうよう配慮している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 日中の生活を充実させ、夜間ゆっくり休んで頂くように関わっているが、それでも眠れない時は安心できるように関わって見守りしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効能、副作用等ファイルに綴りスタッフが何時でも見れるようにしている。投薬の変更時連絡表に記載し共有できている。又投薬の変更時症状の変化に気をつけ、変化があればすぐにDrに連絡する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの力を発揮出来る場面を作り、支援しているが楽しみごとの支援はまだ取り組みが十分では無いと思っている。 (スタッフの人数などで断念)	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) スタッフの人数により、急な外出支援は出来ない事が多い。	
			(外部評価) 事業所の庭は広く、テーブルやいすが置かれ緑を眺めながら外気浴を楽しんだり、散歩することができる。住宅地の中にあり庭越しに挨拶を交わすことができている。定期的買い物に行ったり、通院を兼ねてドライブに行くこともある。調査当日も利用者と職員が一緒に買い物に行くところを見かけたり、前日は市内の温泉にアイスを食べに行ったりしており、希望に沿った外出支援ができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族さんの理解の下、所持している方もいるが、使う機会は少ない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は望まれる時は何時でも支援している。手紙は書ける方が少なくなっている。年賀状などは支援して書いてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 整頓され、風もとおり、季節ごとにリビングを飾り気持ちよく過ごして頂ける様工夫している。	
			(外部評価) 広いリビングには大きなテーブルが置かれ、対面キッチンからは利用者の姿が見渡せる。窓辺にはソファが置かれ、午後からのレクリエーションでは利用者同士が顔を寄り合わせるように座り、リラックスする姿が見られた。利用者の願いを書いた笹飾りや手作りの牛鬼、季節の花が飾られている。利用者も一緒に掃除機をかけたたり手すりを拭いたりして掃除を行い、整理整頓が行き届いており事業所全体に清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室、ソファ、ベンチがありそれぞれ好きなように過ごされています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 備え付けのベッド、ソファ、洋ダンスがあり似た部屋になっている。使い慣れたものを持ってきている方もいるが全員ではない。仏壇を持って来ている方もある。	
			(外部評価) エアコン、ベッド、洋服ダンスやソファが備え付けとなっている。洋服ダンスには耐震用の突っ張り棒が取り付けられている。部屋にはチェスト、テーブル、壁掛け時計、テレビや大切な仏壇など使い慣れたものを持ち込めるようになっているほか、移動時に転倒しなよう動線に無駄な物を置かないなど配慮した部屋づくりになっており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの設置、トイレ、居室の表示などなるべく自立して、安全に生活が送れるよう支援している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870300492
法人名	医療法人三善会
事業所名	グループホーム 薬師谷マナー
所在地	宇和島市川内甲2101番地
自己評価作成日	平成 28 年 7 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 8 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に開かれたホームを目指して運営会議のメンバー、又お茶会の開催など取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市内の外れにあり緑に囲まれ、溪谷から出る清らかな水が前を流れ静かで環境のよい場所に位置している。経営母体は診療所で24時間の医療体制が整っており、利用者の健康管理から看取りまで幅広い対応ができています。開設当初からの職員が多数在籍しており働きやすい環境であり、管理者が職員から信頼される人柄であることが見て取れる。職員は利用者の認知症が進行していく中、ゆっくりかかわって自分では自分でもらうよう見守っている。自分でできた喜びを利用者と共に分かち合い、信頼関係を大切に笑顔で穏やかに、自立した生活が続けられるよう職員全員が同じ思いで支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 薬師谷マナー

(ユニット名) 雪輪

記入者(管理者)

氏名 横濱 和枝

評価完了日

平成28年7月1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 各ユニットごとの、スタッフで話し合い理念を作ってミーティング時に復唱し、共有はできている。実践に繋がるよう努力している。</p> <p>(外部評価) 開設時の職員が話し合っって作成した理念を大切に継承しているが、10年経過し見直しを考えている。職員は利用者一人ひとりに寄り添いながら、信頼関係を築き穏やかに過ごしてもらえよう支援に努めている。事業所理念とは別にスタッフ理念も掲げており、ミーティング時に唱和するなど共有し実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩時に挨拶をしたり、自治会に入り活動に参加したり、地域の美容室を利用したり、取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 前回の外部評価のアドバイスを活かし、地域住民の通り道に面した玄関先に事業所の予定を書き込むウェルカムボードが用意されていた。自治会に入会し地域行事に参加して顔見知りになるよう努めており、散歩時には近所の住民と挨拶が交わされている。地方祭では牛鬼が事業所を訪れるなど利用者の楽しみとなっている。</p>	開設して13年目を迎え地域に浸透している。地域は新興住宅地で新しい関係性を築くのが難しい中、努力して前進しているのがわかる。実際、運営推進会議や避難訓練などの参加者も増えている。継続して努力を続け今以上に地域との交流を深め、事業所の良いところなどの発信も期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、又お茶会などを開催したり、行事ごとにはウェルカムボードでお知らせし、ホームに立ち寄ってもらえるよう努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度、開催し活動報告、ホームの実情など報告し意見、情 報を頂き、取り組める事は参考に組み込んでいます。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議のメンバーを増やすよう取り組んだ結果、地域住民の 参加を得て開催できている。会議では、利用者の生活状況や事業所 の活動報告を行っている。最近利用者の重度化が進み外出支援が 減っていることが取り上げられ、家族からは「屋内でも楽しめるこ ともあるので好きなことをさせてほしい」などの要望もあり支援に 生かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議の参加、介護相談員の受け入れ、又解らない事があれ ば相談に乗って頂いている。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に参加しており、事業所の実情を把握して介 護保険の更新や権利擁護などの相談を行うなど適切なアドバイスを もらっている。またヒヤリハットや事故報告が速やかにとり行われ ている。介護相談員の訪問が2か月に1回あり、利用者とは話する ことで気づいたことを助言してもらったりしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) スタッフ全員理解をしていて、身体拘束をしないケアに取り組ん でいる。</p> <p>(外部評価) 職員は身体拘束の弊害について理解し、拘束をしないケアに努めて いる。転倒リスクのある利用者には、センサーマットを取り付ける など予防につなげている。玄関の施錠は夜間のみで日中は出入り自 由である。また、言葉の拘束についてもミーティングで話し合い職 員全員で共有している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 何が虐待にあたるかスタッフ理解をしている。又スタッフのストレスにも気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前、利用したことあり理解はしているが、スタッフには詳しくは理解されていない。今後研修の機会をもちたいと考える。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、主任と一緒に説明し話を聞き、不安の無い様に勤めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの訴えはスタッフで共有し改善できるよう取り組んでいる。家族さんからはミーティングに参加出来る方は参加して頂き、意見を聞いている。又面会時等に常に声をかけさせてもらい、意見を聞くようにしている。 (外部評価) 運営推進会議や面会時に意見や要望を聞いたり、遠方の家族にはホーム便りを送付する際に事業所の活動内容や利用者の状態などを書き添え送っている。家族からの返信書類の中に要望などが添えられており職員全員で共有するようにしている。また2か月に1回のお茶会などで家族との交流を図り、感想が得られるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング時、管理者会議を定期的開催して意見を聞き、報告し、反映出来る事はして頂くが、反映出来ない事もある。 (外部評価) 開設以来の職員が多数在籍しており働きやすい環境が伺える。職員は日常的に気づきや意見をミーティング等で提案し話し合っている。休暇は希望通り取れたり、休憩も別室で取れるなど職員が働きやすいよう配慮されている。最近では家族風呂なら気にせず入れるのではとの意見を取り上げたり、利用者の重度化を踏まえリフト浴の検討などもされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者会議で実情を把握するように努めては頂いているが、十分ではない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修をうける機会は確保して頂いている。学びたい研修を受ける事が出来る。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との交流は理解して頂いているが、特に取り組みはしていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に訪問できる場合は、訪問し話を聞き不安なく入所できるように勤めている。又訪問できない場合は入所時に十分時間を取り、話を聞き不安が無い様に勤めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に訪問できる場合は、訪問して家族さんの話を聞き、又訪問出来ない場合は入所時に時間を取り家族さんの話を聞き、不安の無い様に勤めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族さんにとって何が必要か？十分話を聞き対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として教えて頂いたり、出来ない事をさりげなく支援し、一緒に生活を楽しむよう取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホーム内での様子、昔の様子などお互いに情報交換し良い支援が出来るよう努力している。又家族さんの負担にならない程度に行事、外出等一緒に過ごして頂ける様声かけし、共に支えていく関係づくりに取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の行きたい所支援していたが、最近は認知症の進行（意欲低下、相手の事情）等により出来ていない。面会時にはゆっくりと過ごして頂ける様支援している。 (外部評価) 近くの神社へ参拝に行ったりコスモスなどを見に行ったりしている。地域の美容室に定期的に行き、全介助の利用者も毛染めを行うと笑顔がみられる。週1回程度の買い物では利用者それぞれの食べ物や、晩酌の好きな利用者は自らお酒を選んで楽しむことができている。昔の同僚が面会に来てくれたり、自分で携帯電話をかけたりにして馴染みの関係を大切にしている。今月は七夕踊りに出かける予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関係性を把握し、良好な時は見守り、関係性悪化の時は介入し、孤立している人があれば関係性を築けるように支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他に移られた場合は情報提供したり、求められれば相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 契約時、又日々の関わりの中で言葉を聞き漏らす事の無い様心がけ本人の思いを把握するよう努めている。困難な場合は普段の行動や言動を観察して本人本位に検討している。 (外部評価) 利用者一人ひとりとゆっくりかかわることで思いを聞き取るよう努めている。言葉に表せない利用者には行動や表情により把握したり、利用者の今までの経過などを確認し意向を把握するようにしている。リビングに七夕飾りが飾られ、短冊には利用者の字で思いや願い事が書かれており、職員も毎日それを見ながら業務に励んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人を知る為にも必要と考え、プライバシーに配慮し把握に努め、スタッフで共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズム、心身の状態、出来る事、解る事など、その人の全体像を把握するように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者を決め、ひもときシートを使い問題点を抽出、家族やスタッフと話し合いプランに反映している。同席できない場合は面会時、TELなどで意見を聞き反映している。	
			(外部評価) 家族面会時や電話で意向を確認したり、ミーティング時家族に参加してもらいながら利用者や家族の要望を取り入れ、担当者を中心に介護計画を作成しており、「挨拶をする」「散歩に行きたい」「トイレに行く」など要望が盛り込まれている。また定期的にモニタリングを行うなど職員と家族が情報や思いを共有しながら、よりよい介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式の24時間シートに記録し活用している。介護計画に反映するよう勤めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院、個別の買い物、自宅までの送迎等、希望に応じ対応出来る事はしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの受け入れ、地区の消防団と連携し避難訓練、地区の美容室の利用、地区のお祭りへの参加、など支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人、家族の希望を聞き適切な医療が受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 母体の診療所がかかりつけ医となっており、訪問診療や訪問看護が行われ、24時間医療体制が整っている。専門医への受診は職員同行で行われ、結果は適切に家族に伝えられている。歯科治療など必要に応じ往診が可能で、利用者の健康状態に応じ適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) ホーム内に看護師が居てすぐに相談出来る。又法人の医院の看護師さんにもすぐに相談出来る。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院された場合、生活の様子等情報提供し、入院中は本人のダメージ軽減の為、面会に言っている。又退院時には生活の注意点等、病院より説明を受け、支援している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 終末期の話は早い段階では聞けていない。家族、スタッフ間で方針や終末期のあり方について話し合う必要があると思い今後取り組んでいきたいと思う。</p> <p>(外部評価) 看取り指針を定め、状態に応じ本人や家族の意向を確認しながら事業所ができること、できないことを明確にしながら医師を交え説明がされるなど、意向に沿うよう努めている。今までに本当の看取りを行ったのは1名で、家族も立ち合い穏やかな最期を見送ることができた。今後さらに勉強会を重ね看取りに取り組む姿勢であり、重度化を踏まえ喀痰吸引の研修も検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) スタッフ全員普通救命講座を2年に1回受講し事故発生時に対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を定期的に行い、地区の消防団、近隣の方、運営推進会議のメンバーの方にも協力して頂いている。 (外部評価) 年2回、うち1回は消防署立ち合いのもと消防団や近隣住民の参加を得ながら火災避難訓練を実施している。夜間想定避難訓練も行っており、職員がモデルとなり毛布を使用して階下に下す等実践的な訓練を行っている。また事業所が土石流の災害も懸念されることから、2階への避難訓練も想定し行っている。備蓄品においてはまだ不十分なため調整を行う予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として対応している。 (外部評価) 利用者の今までの歴史をたどり尊厳を損なうことがないよう対応に気をつけている。人生の先輩として敬う気持ちを持ち親しき中にも礼儀ありの意識で言葉かけを行っている。またトイレや入浴時には不快な思いをしないようカーテンや仕切り等でプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の能力に合わせて出来るだけ自己決定の場を作り、本人の思いや希望をを聞けるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) スタッフの人数上一人ひとりのペースにあわせるのは難しいが、利用者さんには説明し、納得してもらっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれまではいかないが、きちんとした身だしなみが保てるよう支援している。近所の美容室へ定期的にお連れしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も同じ物を一緒に食べているが昼食のみで、準備やかたづけも特定の利用者しか行っていない。	
			(外部評価) 担当職員が毎回の献立を重複しないよう確認し、肉や魚、野菜が満遍なく摂れるよう意識しながら決めている。誕生日には利用者がリクエストした食事やケーキが用意されお祝いしている。また利用者の状態に合わせて、きざみやとろみ食など形態を変え提供している。南楽園での外食や秋の家族交流を兼ねた芋炊きなどが予定され、利用者が食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに合った食事量を提供している。咀嚼が難しい人には刻み、とろみをつけ食べれるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけ見守り行っており、援助が必要な方には援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間毎のトイレ誘導や個々にあったパットやパンツの使用を考え、気持ちよく排泄できるよう努力している。	
			(外部評価) 各ユニットにトイレが3か所あり、うち1か所には男子便器が設置されるなど配慮されている。職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導で日中はトイレでの排泄を支援している。職員は利用者に羞恥心を感じさせないようにトイレでの排泄を支援している。トイレが一番落ち着く場所と言われる利用者があり、そこは職員との会話も弾み利用者の思いが聴ける場でもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘薬の調整に頼っている部分もあるが、水分摂取や運動の必要性は十分わかっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴は出来ていないが楽しく入れるように心がけている。	
			(外部評価) 週2～3回の入浴を基本としているが、希望に応じいつでも入れるよう準備している。利用者の状態に合わせて2人対応にするなど、安全に入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には声かけのタイミングや入浴剤を入れるなど工夫し、気分転換を図り無理強いしないよう努めている。着替えは選ぶ喜びを大切に、2パターン用意して決めてもらうよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個室があるので本人の活動状況により休息してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効能、副作用ファイルに綴りスタッフが何時でも見れるようにしている。投薬の変更時連絡表に記載し共有できている。又投薬の変更時、症状の変化に気をつけて、変化があればすぐにDrに連絡している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの力を発揮できる場面を作り、支援しているが楽しみごとの支援はまだ取り組みが十分では無いと思っている。(スタッフの人数等で断念)	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の高齢化に伴い1対1での外出が必要になってきている。希望どりの外出や外出する機会が減ってきている。	
			(外部評価) 事業所の庭は広く、テーブルやいすが置かれ緑を眺めながら外気浴を楽しんだり、散歩することができる。住宅地の中にあり庭越しに挨拶を交わすことができている。定期的買い物に行ったり、通院を兼ねてドライブに行くこともある。調査当日も利用者と職員が一緒に買い物に行くところを見かけたり、前日は市内の温泉にアイスを食べに行ったりしており、希望に沿った外出支援ができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が現金を所持しているのは1名のみで買いたいものを自分で買う事も殆ど無い。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は望まれる時は何時でも支援している。手紙は書ける方が少なくなっている。年賀状などは支援して書いてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 整頓され、風もとおりリビングに季節に合った飾りや生花を飾り季節を感じてもらっています。	
			(外部評価) 広いリビングには大きなテーブルが置かれ、対面キッチンからは利用者の姿が見渡せる。窓辺にはソファが置かれ、午後からのレクリエーションでは利用者同士が顔を寄り合わせるように座り、リラックスする姿が見られた。利用者の願いを書いた笹飾りや手作りの牛鬼、季節の花が飾られている。利用者も一緒に掃除機をかけたたり手すりを拭いたりして掃除を行い、整理整頓が行き届いており事業所全体に清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 広いソファ、和室、気の合った利用者同士でおしゃべりしたりされています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ダンス、ソファ、ベッド、は施設の物を利用しているがそれ以外に利用者さんに必要と思われるものは持参し、危険の無い様に配置している。	
			(外部評価) エアコン、ベッド、洋服ダンスやソファが備え付けとなっている。洋服ダンスには耐震用の突っ張り棒が取り付けられている。部屋にはチェスト、テーブル、壁掛け時計、テレビや大切な仏壇など使い慣れたものを持ち込めるようになっているほか、移動時に転倒しなよう動線に無駄な物を置かないなど配慮した部屋づくりになっており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの設置、トイレ、居室の表示等なるべく自立して、安全に生活が送れるよう支援している。	